

未来につなげよう安心な農業と環境～外来植物を探してみよう～

独立行政法人

農業環境技術研究所

生態学, 植物学

会期：2010年7月28日（水）12：30～7月30日（金）15：30 2泊3日

わが国の生物多様性を脅かす要因の一つとして外来種の脅威が知られています。「外来生物法」により外来種の取り扱いが規制されていますが、すでに蔓延した外来種も多くなっています。

今回のプログラムでは外来種問題について学ぶとともに、野外で外来植物の調査を行い、どんな場所にとどの程度分布しているのか実際に体験してもらいます。さらに、「仮説検証」という野外科学の基礎を学び、調査する前に外来植物の分布について複数の仮説を考え、その仮説に基づいた調査を行い、どの仮説がもっとも正しいかを議論することで、野外科学の方法論を学びましょう。



会場

独立行政法人 農業環境技術研究所
茨城県つくば市観音台3-1-3
(JR常磐線「牛久駅」下車、バス約20分)
URL：<http://www.niaes.affrc.go.jp/>
宿泊場所：農林水産省 農林水産技術会議事務局
筑波事務所 国内研修生宿泊施設

募集人数

6名

キャンプのプログラム内容（予定）

初日は、外来種に関する講義を行い、外来生物法の施行など外来種を巡る社会的な動向を学びます。その後、「仮説検証」という自然科学の基本的な方法論を説明します。続いて、「外来植物はどんな場所に多いか」という問題を設定し、自分の仮説を考えていただきます。提案された仮説をみんなで議論して、さらに絞り込みます。残った有力な仮説に対して、どう調査をすれば答えが出るか検討します。

翌日、検討した方法に基づいて、野外に出て植生調査を行います。方法は、仮説にも依存しますが、最低でも一定面積に出現する植物種を記録します。次に、出現種が外来種であるか否か図鑑等を使って調べ、全種数に占める外来種数の割合を計算します。この割合の多寡が、提案された仮説を支持するか否かで、検証を行います。

最終日には、データを簡単な図表にまとめ、プレゼンテーションの準備を行い、最後に研究員の前で結果を発表していただきます。

スケジュール（予定）

1日目 7月28日（水）

12:30～13:00 集合受付
13:00～14:00 開講式／オリエンテーション／研究所施設見学
14:00～17:00 外来種に関する講義、外来植物の分布に関する仮説と調査方法の議論
17:30～19:00 講師等との交流会

2日目 7月29日（木）

9:00～12:00 実習：野外調査
12:00～13:00 昼食
13:00～17:00 実習：野外調査、データの解析

3日目 7月30日（金）

9:00～12:00 結果の考察、まとめ
12:00～13:00 昼食（キャリアガイダンス）
13:00～14:20 まとめ（発表会の準備）
14:30～15:00 発表会
15:00～15:30 閉講式

1、2日目の夜は宿舎でミーティングを行います。

プログラムの関連図書、Webサイト紹介

日本生態学会編「外来種ハンドブック」地人書館

環境省ホームページ

URL：<http://www.env.go.jp/nature/intro/>